



佐賀大学

準正課教育プログラムの立ち上げ

SPODフォーラム2023

SPODフォーラム2023「準正課教育プログラムの立ち上げ」

本日の全体像

1. 本プログラムの進め方と目標の確認
2. 準正課，正課外キャリア教育とは何か？
3. ペルソナの作成と問題・課題の把握
4. 課題解決のための教育の企画
5. まとめ

1-1. 概要と到達目標

1-2. 講師紹介

1. 本プログラムの進め方と目標の確認

1. 本プログラムの進め方と目標の確認

1-1. 概要と到達目標

- 背景と問題意識

- 学生の多様化, 職業の多様化, 就職活動等のツールの多様化
- 従来型の画一的なキャリア支援, 就職支援に行き詰まり
- 大学内で実施する会社説明会に学生が集まらない
- 学生がどうやって就職活動を行なっているのか把握できていない
- 従来の画一的なキャリア教育からの脱却
- 地元企業からの採用ニーズ

1. 本プログラムの進め方と目標の確認

- 何をするのか？学ぶのか？
 - 主に学生のキャリア形成支援を目的とした，企業等と協働で実施する準正課（正課外）教育プログラムの立ち上げについて学ぶ
 - 従来の画一的なキャリア教育からの脱却を図るべく，対象とする学生を明確にするためペルソナを設定
 - 学生に必要なキャリア形成支援はどのようなものか
 - 自大学で展開するための仕組みを設計

1. 本プログラムの進め方と目標の確認

- 到達目標

1. 自大学のキャリア形成支援が必要な学生のペルソナを1つ以上設定することができる
2. 自大学の教育へ「企業等と協働で取り組む準正課(正課外)教育プログラム」を導入・展開するための課題を述べることができる
3. 自大学の教育へ「企業等と協働で取り組む準正課(正課外)教育プログラム」を導入・展開するための仕組み(戦略)を説明できる

1. 本プログラムの進め方と目標の確認

1-2. 講師紹介

－ 山内 一祥(ヤマウチ カズヨシ)

- ・ 専門は高等教育論。2009年より愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室特定研究員，2011年より佐賀大学高等教育開発センター特任助教，2012年より同大学全学教育機構講師を経て2020年より現職。企業と協働で正課外のキャリア教育プログラムの開発・実施や，正課のPBL教育に取り組む。また，教学マネジメントにおける教学IRや教育企画業務にも携わっている。

－ 村田 晋也(ムラタ シンヤ)

- ・ 九州大学大学院経済学府博士後期課程単位取得満期退学。九州国際大学経済学部経営学科専任助教を経て、平成26年9月より現職。専門は経営学(組織論、人的資源管理論、リーダーシップ論)。現所属部署にて、FD・SD、学生の汎用的能力開発プログラムの運営、共通教育科目の担当、初年次科目の授業支援等に従事。大学間連携共同教育推進事業UNGL事業推進責任者。

2-1.準正課, 正課外キャリア教育とは？

2-2.本プログラムにおける準正課, 正課外キャリア教育とは？

2. 準正課, 正課外キャリア教育とは何か？

2. 準正課, 正課外キャリア教育とは何か？

2-1. 準正課, 正課外キャリア教育とは？

表1. 正課外活動の分類(池田2020)

名称	正課外活動	
	Co-curricular	Extra-curricular
	準正課 (正課補助/正課連動)	正課外(狭義)
大学や教職員の関与	関与あり	関与なし
具体的な活動例	・正課外プロジェクト ・ボランティア活動など	・クラブ・サークル活動 ・アルバイト ・コンテスト

2. 準正課, 正課外キャリア教育とは何か？

先行研究によれば

- 「正課外活動は彼らの学びと成長を高め, 正課では育てるのが難しい能力を獲得する環境となっている」
- 「正課外活動は, 学生が社会と接する機会を創出している」

2. 準正課, 正課外キャリア教育とは何か？

2-2.本プログラムにおける準正課, 正課外キャリア教育とは？

先の分類を前提として,

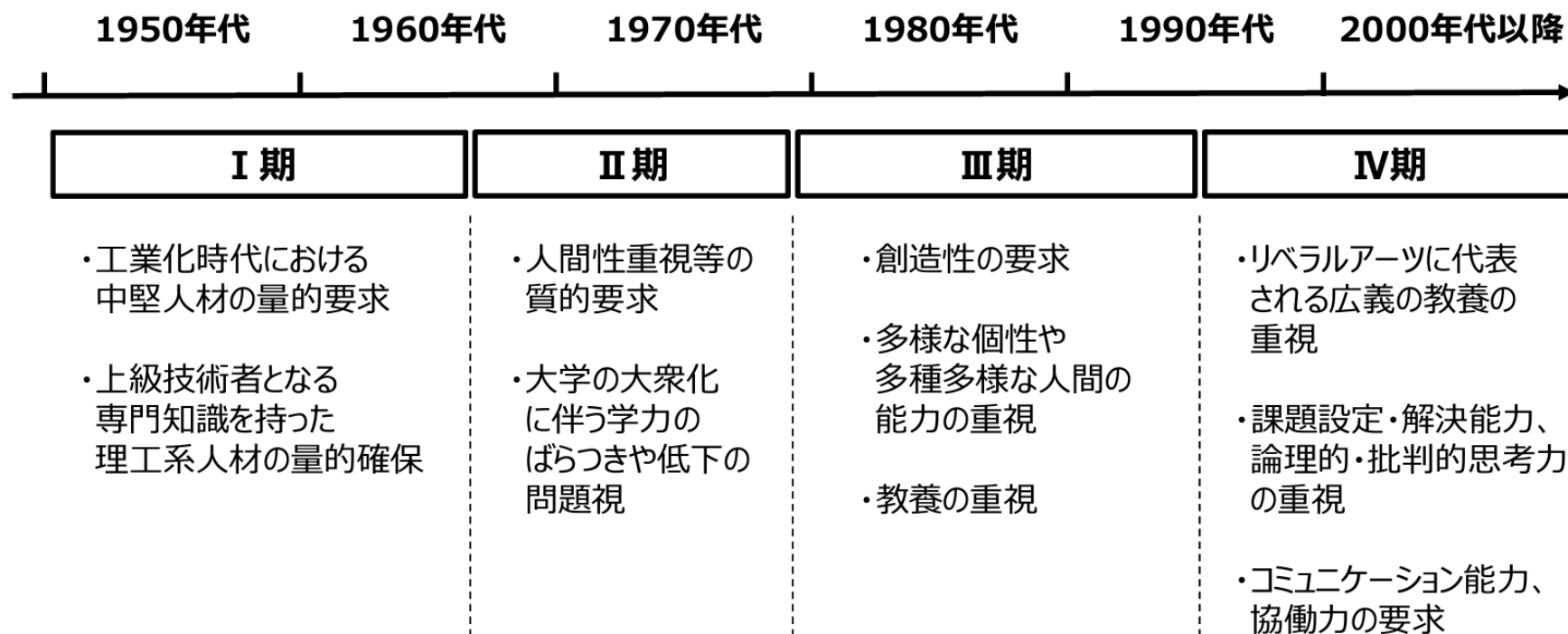
- 正課の授業には馴染まない
- ディプロマポリシーとは強い関連性がない

けれども,

- 社会から求められる人材(像)に必要と考えられる能力の獲得や価値観(職業観)の形成に必要な教育プログラム

(参考)求められる人材(像)

戦後の産業界が求める人材の変遷



(出所) 飯吉弘子「戦後日本産業界の人材・教育要求変化と大学教養教育」を基に経済産業省が作成。

1

(参考)求められる人材(像)

産業界が学生に求めるもの（上位5項目）

	「資質」	「能力」	「知識」
1位	主体性	課題設定・ 解決能力	文系・理系の枠を超えた 知識・教養
2位	チームワーク・ リーダーシップ・協調性	論理的思考力	専攻分野における 基礎知識
3位	実行力	創造力	専攻分野における 専門知識
4位	学び続ける力	傾聴力	数理・データサイエンス・ I T・A I に関する専門知識
5位	柔軟性	発信力	専門資格

（出所）経団連「採用と大学改革への期待に関するアンケート結果」を基に経済産業省が作成。

3-1.ペルソナとは何か？

3-2.ペルソナを作ってみよう！

3-3.問題と課題の整理

3. ペルソナの作成と問題・課題の把握

3. ペルソナの作成と問題・課題の把握

3-1. ペルソナとは何か？

ペルソナとは、マーケティング手法の1つ。商品サービスを利用するユーザー像を仮想の人物として定義したもののこと。



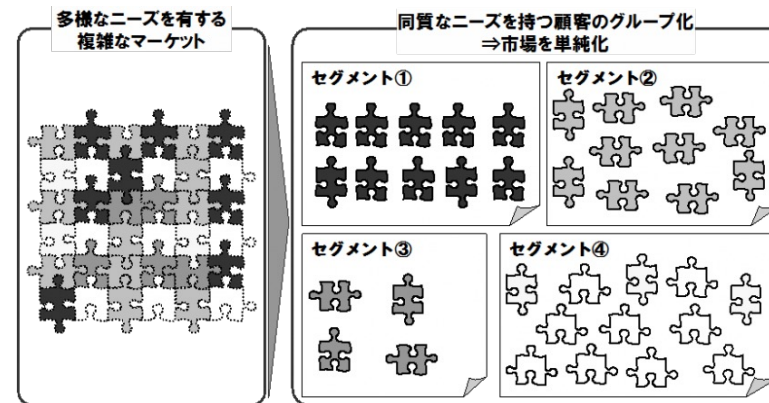
3. ペルソナの作成と問題・課題の把握

- (一般的な)ペルソナを使う目的
 - 顧客やユーザー像を明確にすること
 - 商品企画や営業担当などの間で共通の顧客認識を保持すること
 - ストーリー・経験でマーケットを考える

“教育”でもペルソナを明確にすることが、“よい教育”をデザインすることにつながる！

3. ペルソナの作成と問題・課題の把握

- これまでのマーケティング
 - マーケットセグメント、顧客セグメント
 - セグメントの規模、経済的市場価値の検討
 - 市場や顧客が備えている統計的なデータ、所得別、地域別、年齢別などの項目による分類
 - 顧客の購買行動や選好動向の検討



3. ペルソナの作成と問題・課題の把握

3-2. ペルソナを作ってみよう！

今回作成するのは「偽物のペルソナ」です

- 本物→ユーザーインタビュー等の調査を経て作られたもの
- 偽物→開発者の主観や仮説で作られたもの
- 偽物でも無いよりはまし！
- ただし「偽物」であることを忘れない

3. ペルソナの作成と問題・課題の把握

ペルソナ完成後にも再チェックしてください

- ・ 実在しそうな人物であること！
- ・ 矛盾がないように！
- ・ 都合のいいように書き換えない！

	⑦口癖「あ～、時間がほしい～」 「全然いいよ～」			
	⑥名前	一色 たか子	特徴/特性	● 見た目はおっとりしているが内面はしっかりしている ● マイペース、やるやらないは自分で判断 ● 人あたりは良いが、不必要に友達を増やさない
	性別/年齢	女性/大学 2 年生		
	家族	両親・妹と同居(通学 1 時間)		
	友人関係	同じ学科の5人グループで行動、影のリーダー	趣味	● 休日は妹とショッピング ● スノーボード ● 着付けを習っている
大学	佐賀大学経済学部 大学祭実行委員会に所属し、忙しい			
写真/似顔絵	アルバイト	居酒屋で週 3 回	IT 環境	● スマホがメイン、家にノートPC はある ● 友達とはLINE グループで頻繁にやりとり
②大切にしている価値観			①今、一番悩んでいること・解決したいこと	
● 周囲と同じ人生は嫌、自分なりの道を見つけたい ● いろんな人の考え方を知って学び、将来の選択肢を増やしたい ● 一人の時間を大事にしている ● 好きなことをして生きている社会人に憧れる			● 本音で相談できる友達が少ない ● 意識高い系と思われたくない ● 自分の能力を生かしてもっとハードルの高いことにチャレンジしてみたい	
③行動パターン			④隠れたニーズ(実は…)	
● 平日の夜や休日は、バイトや実行委員会で忙しい ● 空きコマはつい友達とダラダラしてしまいもったいないと感じる ● 実行委員の先輩に頼りにされ、嬉しいと同時に責任感も感じる ● 自分の行動に反応してくれた人がいると、自分が評価されてる感じで嬉しい ● 高校のとき学級委員長に立候補した経験あり ● 友達によく、こうしたら、ああしたら、とアドバイスをする ● 友達グループとの行動を実は決めていることが多い			● 実は、大学生活が物足りないと感じている ● 実は、周囲より抜き出たいと思っている	
⑤大学在学中の目標/野望		大学生活の中で、自分の能力を生かして成功体験を積み、成長を感じる		

	⑦口癖「 」		
	⑥名前		特徴/特性
	性別/年齢		
	家族		
	友人関係		趣味
	大学		
写真/似顔絵	アルバイト		IT 環境
②大切にしている価値観			①今、一番悩んでいること・解決したいこと
③行動パターン			④隠れたニーズ(実は…)
⑤大学在学中の目標/野望			

3. ペルソナの作成と問題・課題の把握

「大学生活」
「進路(就職, 進学など)」
「自分自身のスキルアップ」

- 手順

1. (自大学の)学生をイメージする
2. その人が「一番悩んでいること、解決したいこと」は? ...①

「2」の事柄を起点にして...

3. その人が「大切にしていること」は? ...②
4. その人が普段よくする行動は? ...③
5. 「実は...その人は×××」 ...④+⑤
6. その人の名前は? 口癖は? ...⑥+⑦

ペルソナを矛盾させないように、注意する

3. ペルソナの作成と問題・課題の把握

- ここまで作成したペルソナを紹介しよう。
 - こんな紹介ができるといいね！

「私が作成したペルソナの【⑥名前】さんです。彼/彼女は現在【①悩み】に悩んでいます。(あるいは【①解決したいこと】を解決したいと思っています。)そのように考えるのは、【②】ということや【②】ということとを大切に考えているからです。普段の生活では、【③】のような行動をよくします。こんな【⑥名前】さんですが、実は【④and⑤】のようなことを考えています。以上、【⑥名前】さんの紹介でした。

3. ペルソナの作成と問題・課題の把握

- 手順

6. その人のプロフィールは？

- 性別/年齢、家族構成、友人関係、大学、アルバイト、特徴/特性、趣味、IT環境

7. その人ってどんな顔？

8. その人の普段の生活・過ごし方を記入してみましょう。

(参考①)佐賀大学の場合

	⑦口癖「あ～、時間がほしい～」 「全然いいよ～」		
	⑥名前	一色 たか子	特徴/特性
	性別/年齢	女性/大学2年生	
	家族	両親・妹と同居(通学1時間)	
	友人関係	同じ学科の5人グループで行動、影のリーダー	趣味
	大学	佐賀大学経済学部 大学祭実行委員会に所属し、忙しい	
写真/似顔絵	アルバイト	居酒屋で週3回	IT環境
②大切にしている価値観		①今、一番悩んでいること・解決したいこと	
● 周囲と同じ人生は嫌、自分なりの道を見つけたい ● いろんな人の考え方を知って学び、将来の選択肢を増やしたい ● 一人の時間を大事にしている ● 好きなことをして生きている社会人に憧れる		● 本音で相談できる友達が少ない ● 意識高い系と思われたくない ● 自分の能力を生かしてもっとハードルの高いことにチャレンジしてみたい	
③行動パターン		④隠れたニーズ(実ま…)	
● 平日の夜や休日は、バイトや実行委員会で忙しい ● 空きコマはつい友達とダラダラしてしまいもったいないと感じる ● 実行委員の先輩に頼りにされ、嬉しいと同時に責任感も感じる ● 自分の行動に反応してくれた人がいると、自分が評価されてる感じで嬉しい ● 高校のとき学級委員長に立候補した経験あり ● 友達によく、こうしたら、ああしたら、とアドバイスをする ● 友達グループとの行動を実は決めていることが多い		● 実は、大学生活が物足りないと感じている ● 実は、周囲より抜き出たいと思っている	
⑤大学在学中の目標/野望		大学生生活の中で、自分の能力を生かして成功体験を積み、成長を感じる	

(参考②) 愛媛大学の場合

	⑦口癖「大丈夫、大丈夫」「あー、そしたらやっつくね」		
	⑥名前	愛大 花子	特徴/特性
	性別/年齢	女性/大学1年生	
	家族	両親・弟(県外から進学・一人暮らし)	趣味
	友人関係	同学科の友人とよく活動しているが、交友関係を広げたいと思っている	
	大学	愛媛大学農学部 大学生協学生委員会所属	IT 環境
写真/似顔絵	アルバイト	飲食店で週3日、週末は土産物店	
②大切にしている価値観			①今、一番悩んでいること・解決したいこと
● 親兄弟との良好な関係を保つ ● キラキラしている大学の先輩や社会人との距離を詰めて学びたい ● 少ししんどい思いをしても自分を成長させたい			● 高校まで何となく周りからずっとサブリーダー的なポジションを期待されて引き受けてきたが、実際にはどうしたら皆を上手くまとめて成果を上げることができるか分からない。 ● はっきりとした進路・キャリアイメージが見つからない。何となくなりたい職業はあるが、それでいいのか確信が持てない。
③行動パターン			④隠れたニーズ(実は…)
● 周りの学生たちと波風を立てることはしない。他者と意見がぶつかったときは自分の方から譲歩する。 ● 友人関係を保つため、気になることがあっても発言しない。 ● 授業等でグループワークをするときは自分から口火を切りたいと思いつつ、いざとなると躊躇して声を出すことができず、後から後悔する。 ● 人から頼まれたことは可能な範囲で引き受ける。時々、キャパを超えて引き受けてしまい、タスクを完了するのが遅れる。			● 実は、サブリーダーではなくリーダーを務めてみたいと思っている。 ● 実は、自分の意見をはっきりと打ち出し、同級生や後輩たちに頼られる先輩になりたいと思っている。
⑤大学在学中の目標/野望			周りの学生たちをあとと言わせるようなチャレンジをしたい(例:長期留学、学生起業など)

3. ペルソナの作成と問題・課題の把握

3-3. 問題と課題の整理

- 問題

ペルソナが抱えている“本当はこうありたいと願う姿（理想像）”と“実際の姿（現実）”との間に存在する事柄



今, 一番悩んでいること・
解決したいこと

- 課題

問題を解消するために取り組まなければならない事柄または、
解決しなければならない事柄

3. ペルソナの作成と問題・課題の把握

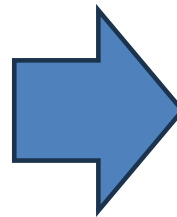
- **【理想像】のイメージ**

(今, 一番悩んでいること・解決したいこと)

「問題」を解消してどのような状態・人材になりたいと考えているのでしょうか？

「問題」を解消してどのような状態・人材になってほしいと考えていますか？

(現実)



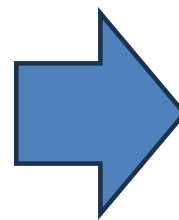
(理想像)



3. ペルソナの作成と問題・課題の把握

- 例えば「一色 たか子」さんの場合

- 本音で相談できる友達が少ない
- 意識高い系と思われたくない
- 自分の能力を生かしてもっとハードルの高いことにチャレンジしてみたい



「将来について真剣に話ができる仲間と自分自身の将来につながるような積極的なアクション取れるようになりたい。」

3. ペルソナの作成と問題・課題の把握

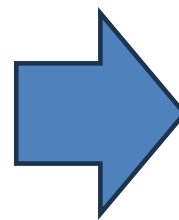
- **【理想像】に対するペルソナの想い, 理由**
また, その理想の状態・人材になりたいと願うのはなぜなのでしょう？



3. ペルソナの作成と問題・課題の把握

- 例えば「一色 たか子」さんの場合

将来について真剣に話ができる仲間と自分自身の将来につながるような積極的なアクションとり，納得のいく人生の選択をしたい。あるいは送りたい。



「せっかく大学まで進学しているのだから，意味があったと言えるようになりたいし，将来，憧れのあの人のように自分の好きなことを仕事にして，誰かの役に立ちたいと考えるから。」

3. ペルソナの作成と問題・課題の把握

- ここまで、全て“想像”で構いません！
- つまり、間違っているでもいいんです！
- まずは、仮定することが大切です！



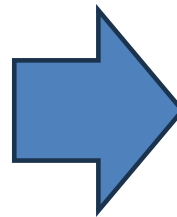
3. ペルソナの作成と問題・課題の把握

- **【課題】の洗い出しと特定**

理想像に向かうための課題は何でしょうか？

その中で教育プログラムによって解決可能な課題は？

(現実)



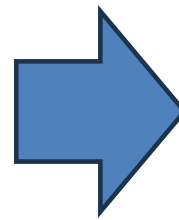
(理想像)



3. ペルソナの作成と問題・課題の把握

- 例えば「一色 たか子」さんの場合

- ・将来について真剣に話ができる仲間と自分自身の将来につながるような積極的なアクションとり，納得のいく人生の選択をしたい。あるいは送りたい。
- ・せっかく大学まで進学しているのだから，意味があったと言えるようになりたいし，将来，憧れのあの人のように自分の好きなことを仕事にして，誰かの役に立ちたいと考えるから。



【課題】

- ・真剣な仲間づくりの機会提供
- ・社会で役立つ知識や技術が身に付く学習機会の提供
- ・社会人と知り合う機会，チャレンジの機会に関する情報の提供

4-1.企画の全体像

4-2.企画の概要を考える

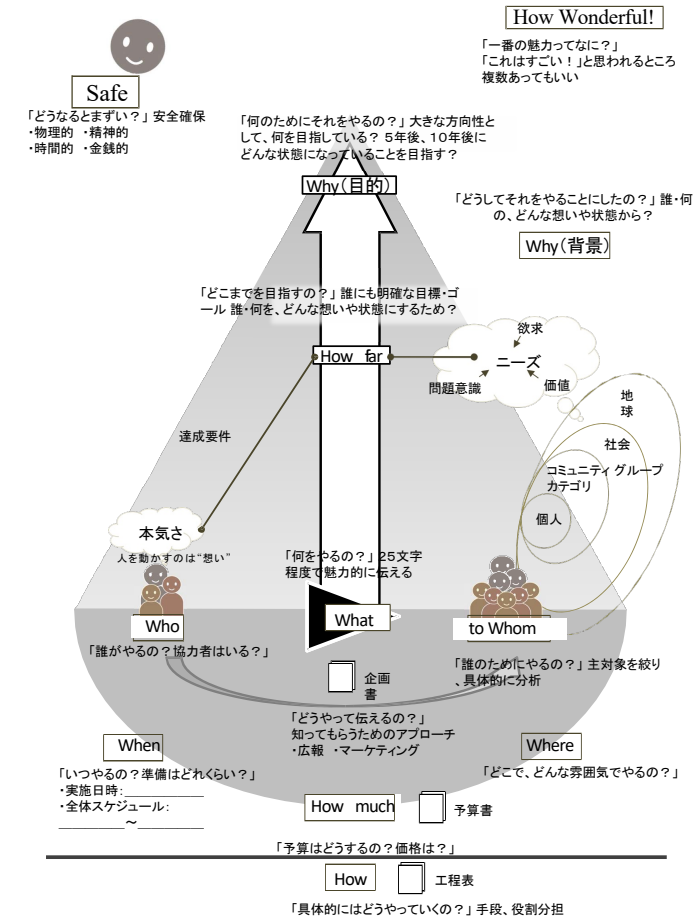
4. 課題解決のための教育の企画

4. 課題解決のための教育の企画

4-1. 企画の全体像

- 企画の根幹的構成要素

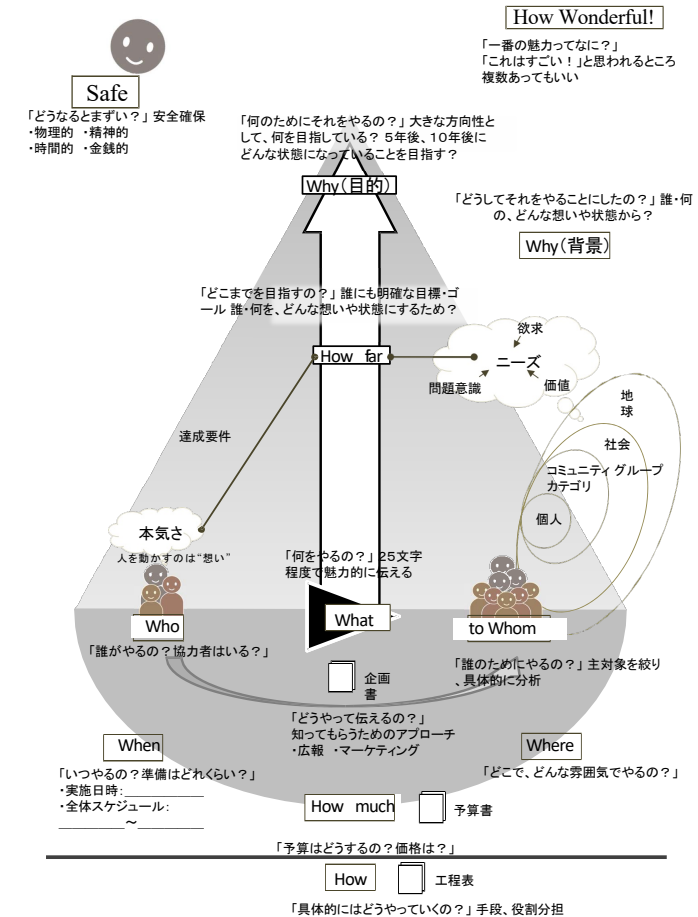
- Why(目的)
- How Far(到達目標)
- What(内容)
- Who(誰が)
- to Whom(誰に)



4. 課題解決のための教育の企画

• 企画の周辺の構成要素

- Safe(安全性への配慮)
- How Wonderful!(魅力)
- Why(社会的背景)
- When(いつ)
- How much(費用等)
- Where(場所, 環境)
- How(具体的工程)



4. 課題解決のための教育の企画

4-2. 企画の概要を考える

1. to Whom: 誰のための企画かを考える



【ペルソナの一般化】

普段の学生生活に物足りなさを感じ、できれば他の学生とは違う何かに挑戦し、将来につながる経験をしたいと思っているが、つつい授業の空きコマや空いた時間にダラダラしてしまっている学生。

4. 課題解決のための教育の企画

2. Why＝目的（ペルソナの想い＋選択した課題）



【理想像に対するペルソナの想い，理由】

「せっかく大学まで進学しているのだから，意味があったと言えるようになりたいし，将来，憧れのあの人のように自分の好きなことを仕事にして，誰かの役に立ちたいと考えるから。」



【選択した課題】

「社会で役立つ知識や技術が身に付く学習機会の提供」



【目的】

（学生が）大学進学の意味を感じ，将来のキャリアビジョンを明確にするために，社会で役立つ知識や技術を活用することができるようになる。

4. 課題解決のための教育の企画

3. How far＝本企画のゴールは？（＝到達目標）

≡企画の成果，成功の定義

【目的】

（学生が）大学進学の意味を感じ，将来のキャリアビジョンを明確にするために，社会で役立つ知識や技術を活用することができるようになる。

【到達目標】

企画に参加した学生が，参加前後で何がどの程度できるようになることを想定するか例

- ・自分自身の言葉で，大学進学の意味を説明することができるようになる。
- ・名刺交換のマナーを正しく実践することができるようになる

4. 課題解決のための教育の企画

4. Who＝実施主体や連携先は？

【到達目標】

企画に参加した学生が、参加前後で何がどの程度できるようになることを想定するか例

- ・自分自身の言葉で、大学進学の意味を説明することができるようになる。
- ・名刺交換のマナーを正しく実践することができるようになる



- ・実施できる学内の部局，教員，職員は？
- ・知見をもっているあるいは社業にしている会社は？
- ・社員研修に力を入れている企業は？
- ・個人やNPO法人などは？

4. 課題解決のための教育の企画

5. What＝教育プログラムの概要

- 概要の構成

【to Whom】を対象として，【Why】を目的として，【実施形態など】を実施する。【実施形態など】では，参加学生が【大まかな内容】を通して，【How far】できるようになることを目標とする。なお，実施にあたっては，【Who】が主体となり【Who】と連携して行う。

4. 課題解決のための教育の企画

5. What＝教育プログラムの概要

・ 概要例

【普段の学生生活に物足りなさを感じ、できれば他の学生とは違う何かに挑戦し、将来につながる経験をしたいと思っているが、つつい授業の空きコマや空いた時間にダラダラしてしまっている学生】を対象として、【大学進学の意味を感じ、将来のキャリアビジョンを明確にするために、社会で役立つ知識や技術を活用することができるようになること】を目的として、ワークショップを実施する。

ワークショップでは、参加学生が【実際に社会人との交流】を通して、【名刺交換のマナーを正しく実践することができるようになる】ことを目標とする。なお、実施にあたっては、【キャリアセンター】が主体となり【佐賀県内企業3社】と連携して行う。

4. 課題解決のための教育の企画

5. What＝教育プログラムの概要

- 【to Whom】: 誰のために

【普段の学生生活に物足りなさを感じ、できれば他の学生とは違う何かに挑戦し、将来につながる経験をしたいと思っているが、つつい授業の空きコマや空いた時間にダラダラしてしまっている学生】を対象として、【大学進学の意味を感じ、将来のキャリアビジョンを明確にするために、社会で役立つ知識や技術を活用することができるようになること】を目的として、ワークショップを実施する。

ワークショップでは、参加学生が【実際に社会人との交流】を通して、【名刺交換のマナーを正しく実践することができるようになる】ことを目標とする。なお、実施にあたっては、【キャリアセンター】が主体となり【佐賀県内企業3社】と連携して行う。

4. 課題解決のための教育の企画

5. What＝教育プログラムの概要

- 【Why】: 目的

【普段の学生生活に物足りなさを感じ、できれば他の学生とは違う何かに挑戦し、将来につながる経験をしたいと思っているが、つつい授業の空きコマや空いた時間にダラダラしてしまっている学生】を対象として、【大学進学の意味を感じ、将来のキャリアビジョンを明確にするために、社会で役立つ知識や技術を活用することができるようになること】を目的として、ワークショップを実施する。

ワークショップでは、参加学生が【実際に社会人との交流】を通して、【名刺交換のマナーを正しく実践することができるようになる】ことを目標とする。なお、実施にあたっては、【キャリアセンター】が主体となり【佐賀県内企業3社】と連携して行う。

4. 課題解決のための教育の企画

5. What＝教育プログラムの概要

・【実施形態など】

【普段の学生生活に物足りなさを感じ、できれば他の学生とは違う何かに挑戦し、将来につながる経験をしたいと思っているが、つつい授業の空きコマや空いた時間にダラダラしてしまっている学生】を対象として、【大学進学の意味を感じ、将来のキャリアビジョンを明確にするために、社会で役立つ知識や技術を活用することができるようになること】を目的として、**ワークショップ**を実施する。

ワークショップでは、参加学生が【実際に社会人との交流】を通して、【名刺交換のマナーを正しく実践することができるようになる】ことを目標とする。なお、実施にあたっては、【キャリアセンター】が主体となり【佐賀県内企業3社】と連携して行う。

4. 課題解決のための教育の企画

5. What＝教育プログラムの概要

・【大まかな内容】

【普段の学生生活に物足りなさを感じ、できれば他の学生とは違う何かに挑戦し、将来につながる経験をしたいと思っているが、つつい授業の空きコマや空いた時間にダラダラしてしまっている学生】を対象として、【大学進学の意味を感じ、将来のキャリアビジョンを明確にするために、社会で役立つ知識や技術を活用することができるようになること】を目的として、ワークショップを実施する。

ワークショップでは、参加学生が【実際に社会人との交流】を通して、【名刺交換のマナーを正しく実践することができるようになる】ことを目標とする。なお、実施にあたっては、【キャリアセンター】が主体となり【佐賀県内企業3社】と連携して行う。

4. 課題解決のための教育の企画

5. What＝教育プログラムの概要

- 【How far】: 目標

【普段の学生生活に物足りなさを感じ、できれば他の学生とは違う何かに挑戦し、将来につながる経験をしたいと思っているが、つつい授業の空きコマや空いた時間にダラダラしてしまっている学生】を対象として、【大学進学の意味を感じ、将来のキャリアビジョンを明確にするために、社会で役立つ知識や技術を活用することができるようになること】を目的として、ワークショップを実施する。

ワークショップでは、参加学生が【実際に社会人との交流】を通して、【名刺交換のマナーを正しく実践することができるようになる】ことを目標とする。なお、実施にあたっては、【キャリアセンター】が主体となり【佐賀県内企業3社】と連携して行う。

4. 課題解決のための教育の企画

5. What＝教育プログラムの概要

- 【Who】: 実施主体

【普段の学生生活に物足りなさを感じ、できれば他の学生とは違う何かに挑戦し、将来につながる経験をしたいと思っているが、つつい授業の空きコマや空いた時間にダラダラしてしまっている学生】を対象として、【大学進学の意味を感じ、将来のキャリアビジョンを明確にするために、社会で役立つ知識や技術を活用することができるようになること】を目的として、ワークショップを実施する。

ワークショップでは、参加学生が【実際に社会人との交流】を通して、【名刺交換のマナーを正しく実践することができるようになる】ことを目標とする。なお、実施にあたっては、【キャリアセンター】が主体となり【佐賀県内企業3社】と連携して行う。

5. まとめ

5. まとめ

本日の全体像

1. 本プログラムの進め方と目標の確認
2. 準正課，正課外キャリア教育とは何か？
3. ペルソナの作成と問題・課題の把握
4. 課題解決のための教育の企画
5. まとめ

5. まとめ

準正課，正課外キャリア教育とは？

- 正課の授業には馴染まない
- ディプロマポリシーとは強い関連性がないけれども，
- 社会から求められる人材（像）に必要と考えられる能力の獲得や価値観（職業観）の形成に必要な教育プログラム

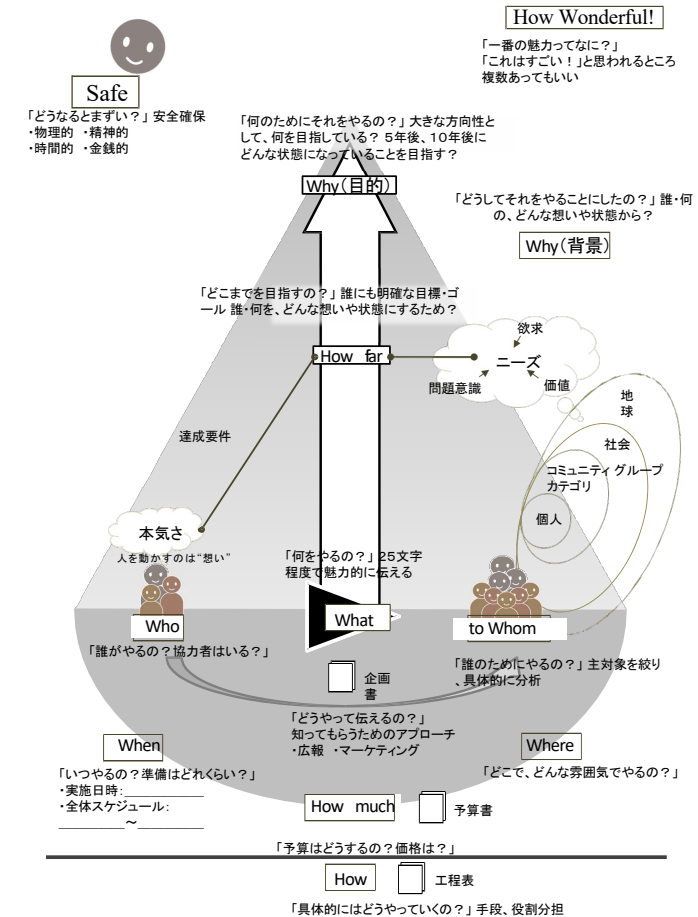
5. まとめ

	⑦口癖「あ～、時間がほしい～」 「全然いいよ～」		
	⑥名前	一色 たか子	特徴/特性
	性別/年齢	女性/大学2年生	
	家族	両親・妹と同居(通学1時間)	
	友人関係	同じ学科の5人グループで行動、影のリーダー	趣味
	大学	佐賀大学経済学部 大学祭実行委員会に所属し、忙しい	
写真/似顔絵	アルバイト	居酒屋で週3回	IT環境
②大切にしている価値観		①今、一番悩んでいること・解決したいこと	
● 周囲と同じ人生は嫌、自分なりの道を見つけたい ● いろんな人の考え方を知って学び、将来の選択肢を増やしたい ● 一人の時間を大事にしている ● 好きなことをして生きている社会人に憧れる		● 本音で相談できる友達が少ない ● 意識高い系と思われたくない ● 自分の能力を生かしてもっとハードルの高いことにチャレンジしてみたい	
③行動パターン		④隠れたニーズ(実は…)	
● 平日の夜や休日は、バイトや実行委員会で忙しい ● 空きコマはつい友達とダラダラしてしまいもったいないと感じる ● 実行委員の先輩に頼りにされ、嬉しいと同時に責任感も感じる ● 自分の行動に反応してくれた人がいると、自分が評価されてる感じで嬉しい ● 高校のとき学級委員長に立候補した経験あり ● 友達によく、こうしたら、ああしたら、とアドバイスをする ● 友達グループとの行動を実は決めていることが多い		● 実は、大学生活が物足りないと感じている ● 実は、周囲より抜き出たいと思っている	
⑤大学在学中の目標/野望		大学生生活の中で、自分の能力を生かして成功体験を積み、成長を感じる	

5. まとめ

• 企画の根幹的構成要素

- Why(目的)
- How Far(到達目標)
- What(内容)
- Who(誰が)
- to Whom(誰に)



5. まとめ

- 到達目標

1. 自大学のキャリア形成支援が必要な学生のペルソナを1つ以上設定することができる
2. 自大学の教育へ「企業等と協働で取り組む準正課(正課外)教育プログラム」を導入・展開するための課題を述べることができる
3. 自大学の教育へ「企業等と協働で取り組む準正課(正課外)教育プログラム」を導入・展開するための仕組み(戦略)を説明できる

問合せ先

◆お問い合わせは

佐賀大学キャリアセンター 山内 一祥(ヤマウチ カズヨシ)まで



お電話でのご質問・お問い合わせは



0952-28-8797

受付時間 9:00～15:00(平日のみ)なお、業務の都合により不在にする場合があります。

メールでのご質問・お問い合わせは



yamakazu@cc.saga-u.ac.jp

受付時間 9:00～15:00(平日のみ)なお、業務の都合により返信にお時間をいただく場合があります。